

## 第 1 回マザーレイクフォーラム円卓会議の結果

### 1. 開催概要

#### (1) 概要

タイトル：マザーレイクフォーラム ～思いをつなぎ、命をつなぐ。母なる湖のもとに～

開催日時：2012 年 3 月 25 日（日）10:00～16:15

開催場所：コラボしが 2 1 3 階大会議室（大津市打出浜 2－1）

主催：滋賀県、マザーレイクフォーラム円卓会議運営委員会

参加者数：一般参加＋関係者 合計 202 名

#### (2) 開催内容

##### 1) 第一部 10:00-12:00 講演と対談

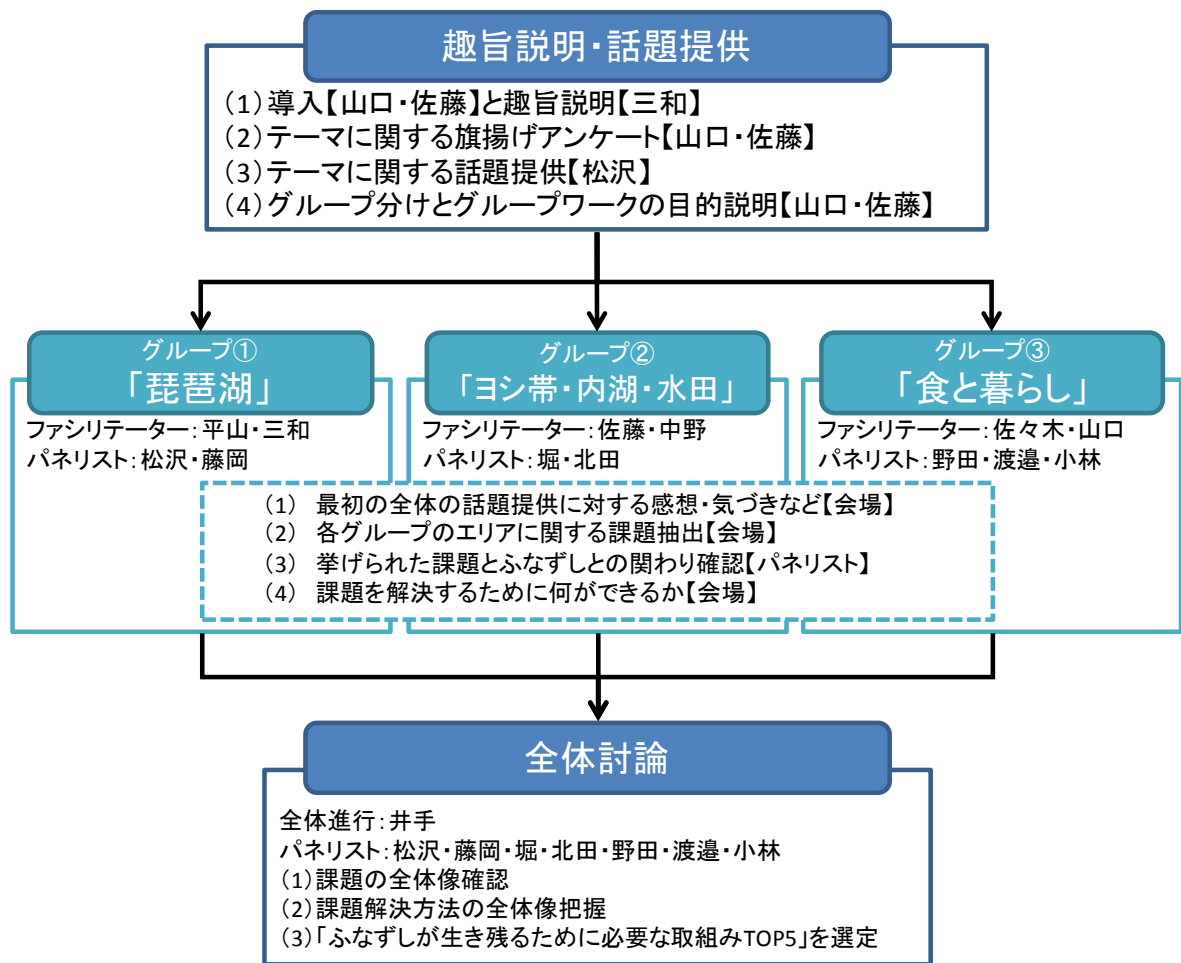
マザーレイク 21 計画（第 2 期）DVD 放映

開会挨拶 嘉田由紀子（滋賀県 知事）

講演 山崎亮（studio-L 代表）：海士町総合振興計画づくりについて

対談 山崎亮×嘉田滋賀県知事

2) 第二部 13:15-16:15 マザーレイクフォーラム円卓会議



1. 趣旨説明・話題提供

テーマ 「ふなずしは生き残れるか? ～考えよう! あなたの暮らしとびわ湖の未来～」

司会 山口美知子 (滋賀県地方自治研究センター)

佐藤祐一 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

趣旨説明 三和伸彦 (滋賀県琵琶湖政策課)

旗揚げアンケート練習 (2 題)

話題提供 松沢松治 (中主漁業協同組合・びわ湖の水と地域の環境を守る会)

グループワークの説明とグループ分け

2. グループ討論

(1) グループ① 「琵琶湖」

ファシリテーター: 平山奈央子 (金沢大学) ・ 三和伸彦

パネリスト：松沢松治・藤岡康弘（滋賀県水産試験場）

(2) グループ②「ヨシ帯・内湖・水田」

ファシリテーター：佐藤祐一・中野隆弘（びわ湖エコアイディア倶楽部）

パネリスト：堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）・北田俊夫（NPO 法人びわこ豊穰の郷）

(3) グループ③「食と暮らし」

ファシリテーター：佐々木和之（水色舎）、山口美知子

パネリスト：野田晃弘（NPO 法人蒲生野考現倶楽部）・渡辺維子（(公社)滋賀県環境保全協会）・小林泉（滋賀県琵琶湖政策課）

3. 全体討論

進行：井手慎司（滋賀県立大学）

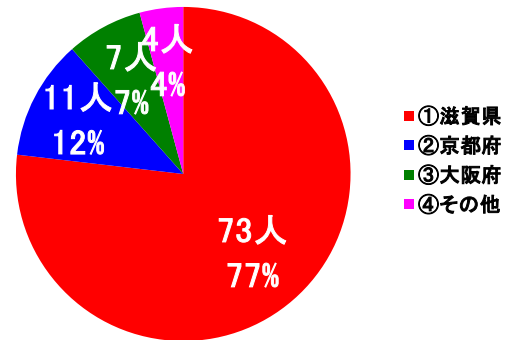
パネリスト：松沢松治・藤岡康弘・堀彰男・北田俊夫・野田晃弘・渡辺維子・小林泉

## 2. 結果

### (1) 趣旨説明・話題提供

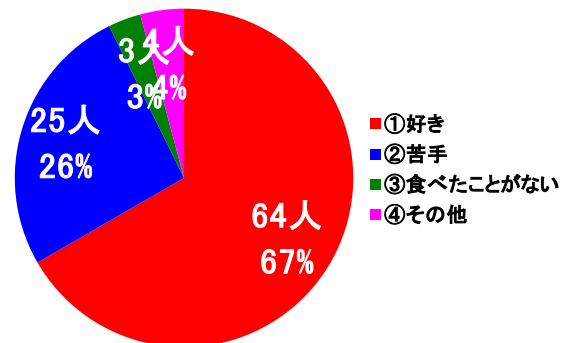
#### A. 練習1 今日どちらから来られましたか？【旗揚げ】

- ① 滋賀県
- ② 京都府
- ③ 大阪府
- ④ その他



#### B. 練習2 あなたは「ふなずし」についてどう思われますか？【旗揚げ】

- ① おいしい！好き！
- ② 正直、苦手・・・あまり好きじゃない
- ③ まだ食べたことがない
- ④ その他





## (2) グループ討論

### 1) 進め方(各グループ共通)

A. 先ほどの話題提供を聞いて、どのように思われましたか？【旗揚げ】

- ① ふなずしができるまでの過程の複雑さに驚いた
- ② ニゴロブナを巡る環境が大きく変わってきたことにショックを受けた
- ③ 話が少し難しかった、もっと理解したい
- ④ その他

B. 各グループのテーマに関して一番問題・課題だと思っていることを書く【フリップ】

C. それらの問題・課題のうち、ふなずしやニゴロブナと関連の深いものをピックアップ【パネリスト】

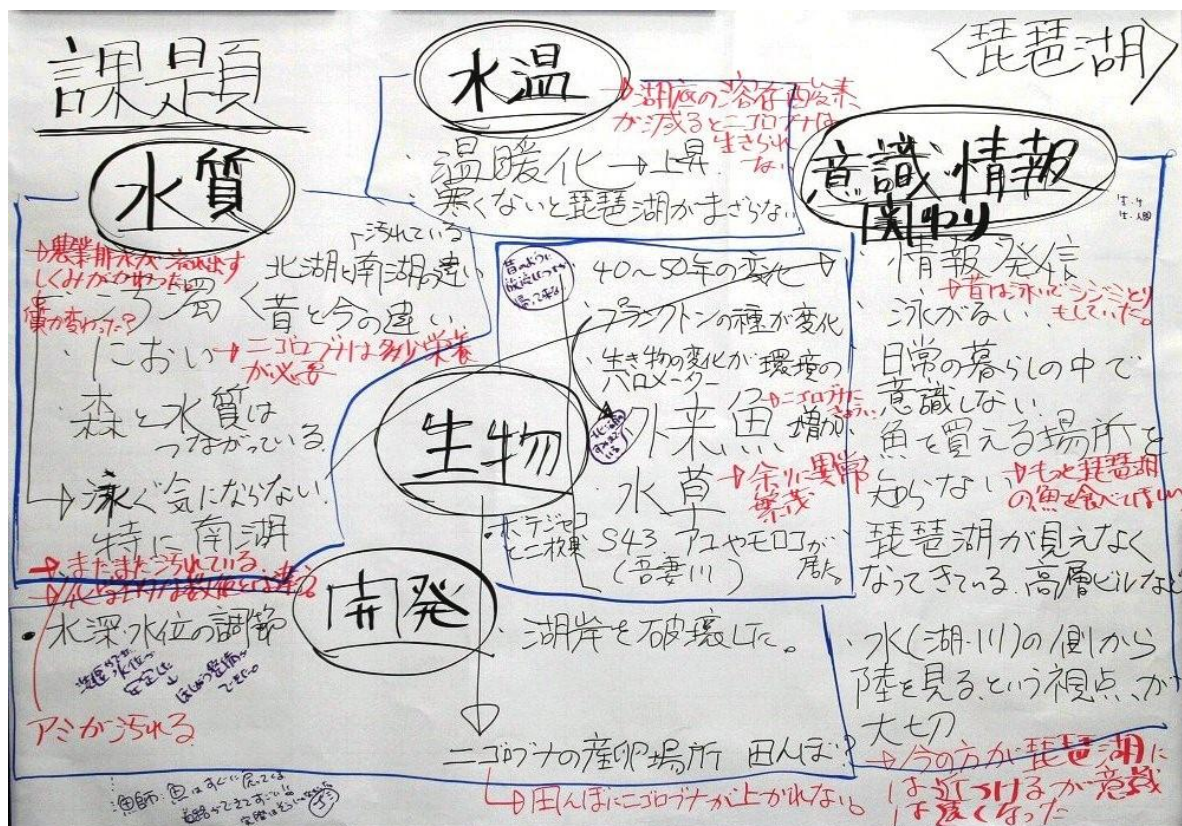
D. ふなずしが生き残るために最も必要だと思う取り組みを書く【フリップ】

B～C と、D について、それぞれ 1 枚の模造紙を使用してまとめる

### 2) 各グループの結果

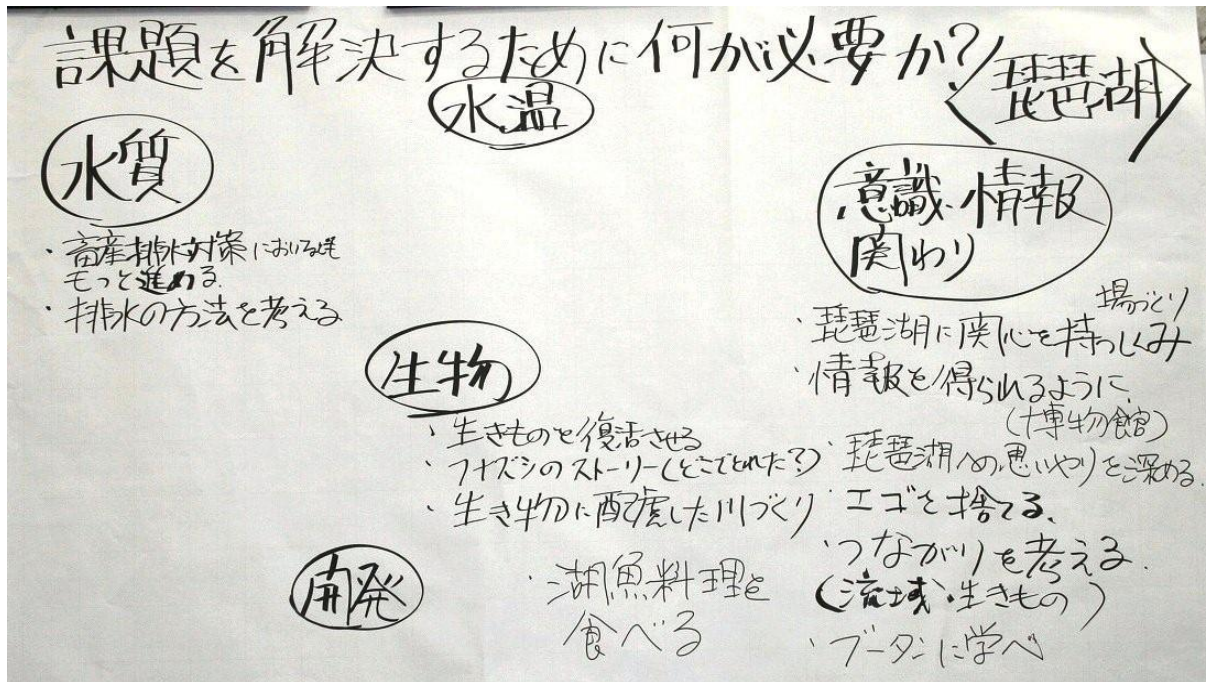
(1) グループ①「琵琶湖」

<課題>





<取り組み>

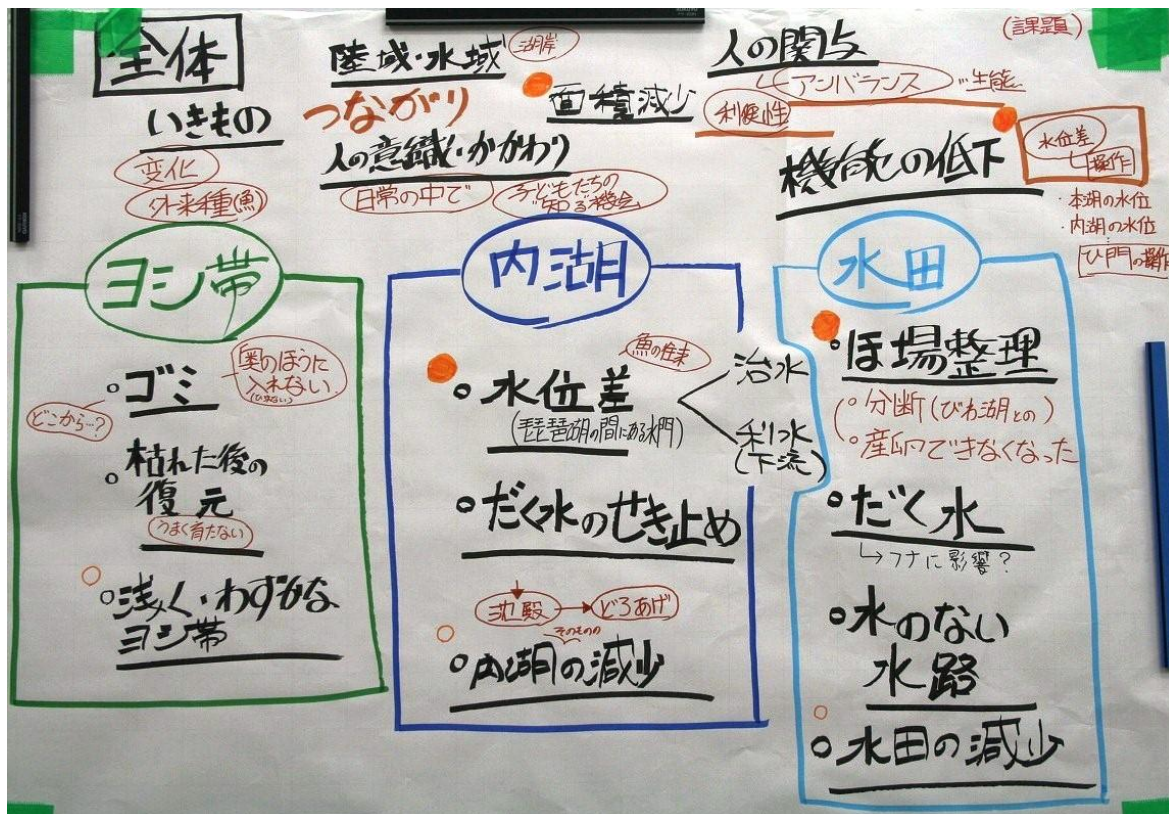


<風景>



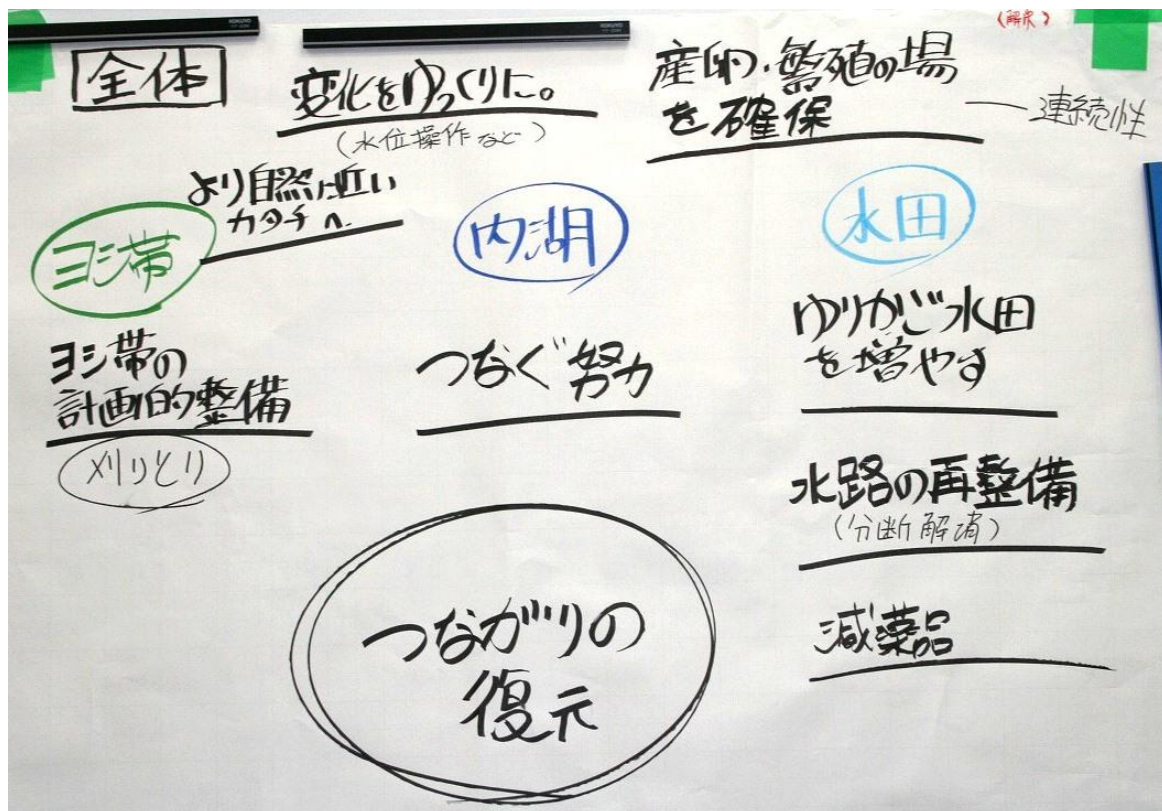
(2) グループ②「ヨシ帯・内湖・水田」

<課題>



<取り組み>



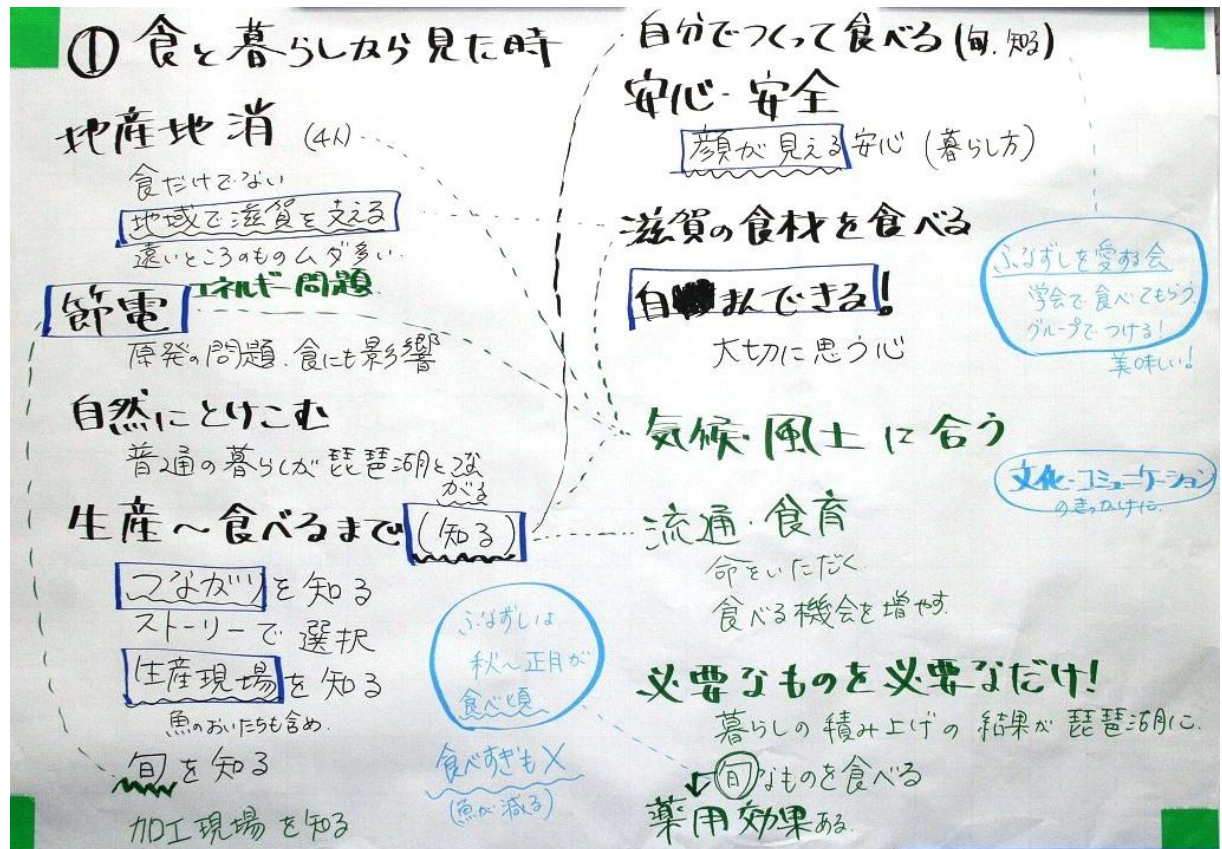


<風景>



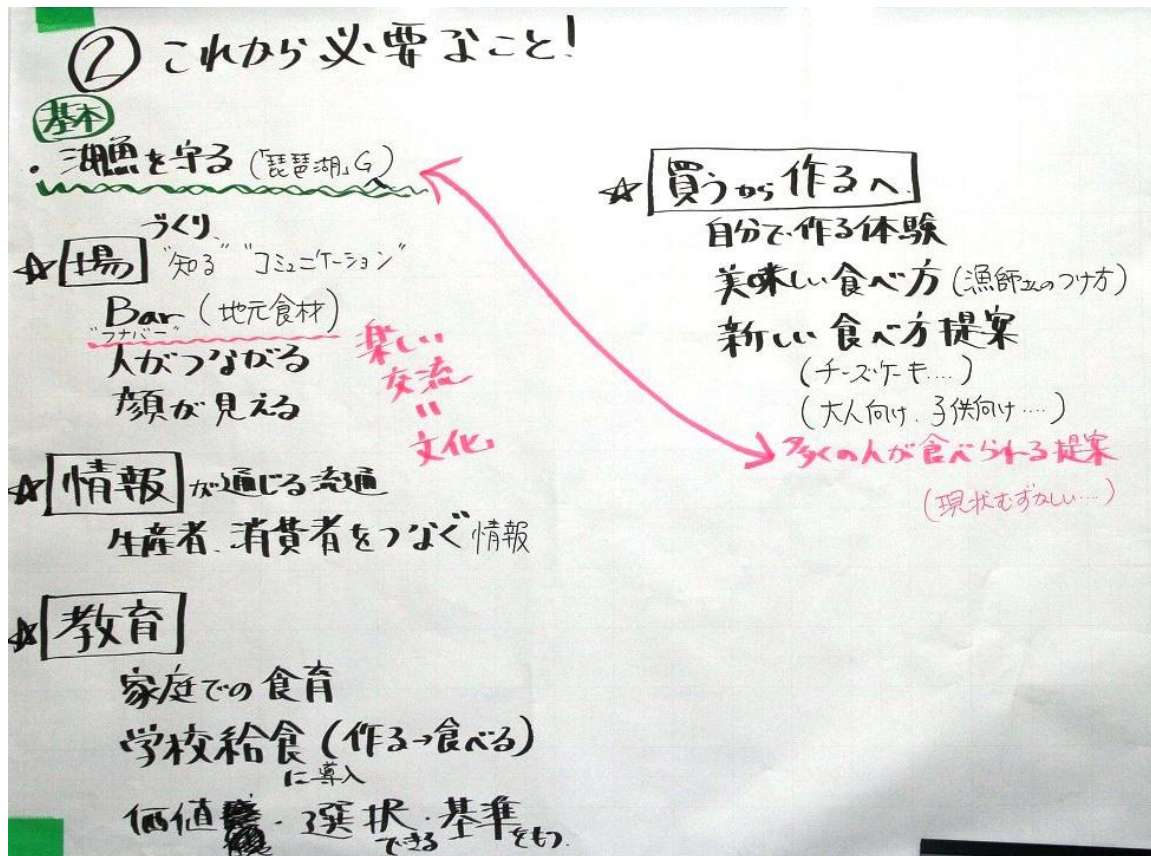
(3) グループ③「食と暮らし」

<課題>



<取り組み>





### (3) 全体討論

#### A. 問題・課題の全体像確認

各グループのファシリテーターから概要報告の後、パネリストがコメント



## B. 取り組みの全体像確認

各グループのファシリテーターから概要報告の後、パネリストがコメント

「ふなずしが生き残るために必要な取り組み」リスト

- ① 琵琶湖への関心を高める仕組みや場づくり【グループ①】
- ② ふなずしのストーリーを聞きながら食べる機会【グループ①】
- ③ 生き物に配慮した川づくり【グループ①】
- ④ ヨシ帯内湖水田の物理的な繋がりの復元【グループ②】
- ⑤ ヨシ帯内湖水田の面積の復元【グループ②】
- ⑥ 人々がつながり、取り組みに参加する仕組みづくり【グループ②】
- ⑦ 自ら作る・オリジナルふなずし【グループ③】
- ⑧ 食育へ導入【グループ③】
- ⑨ モデル地区づくり＋見学【パネリスト】
- ⑩ ふなずしを県外にPR【パネリスト】





C. 「ふなずしが生き残るために必要な取組み TOP5」を選定【旗揚げ】

B.で抽出された取組みについて、会場全体の旗揚げにより TOP5 を選定

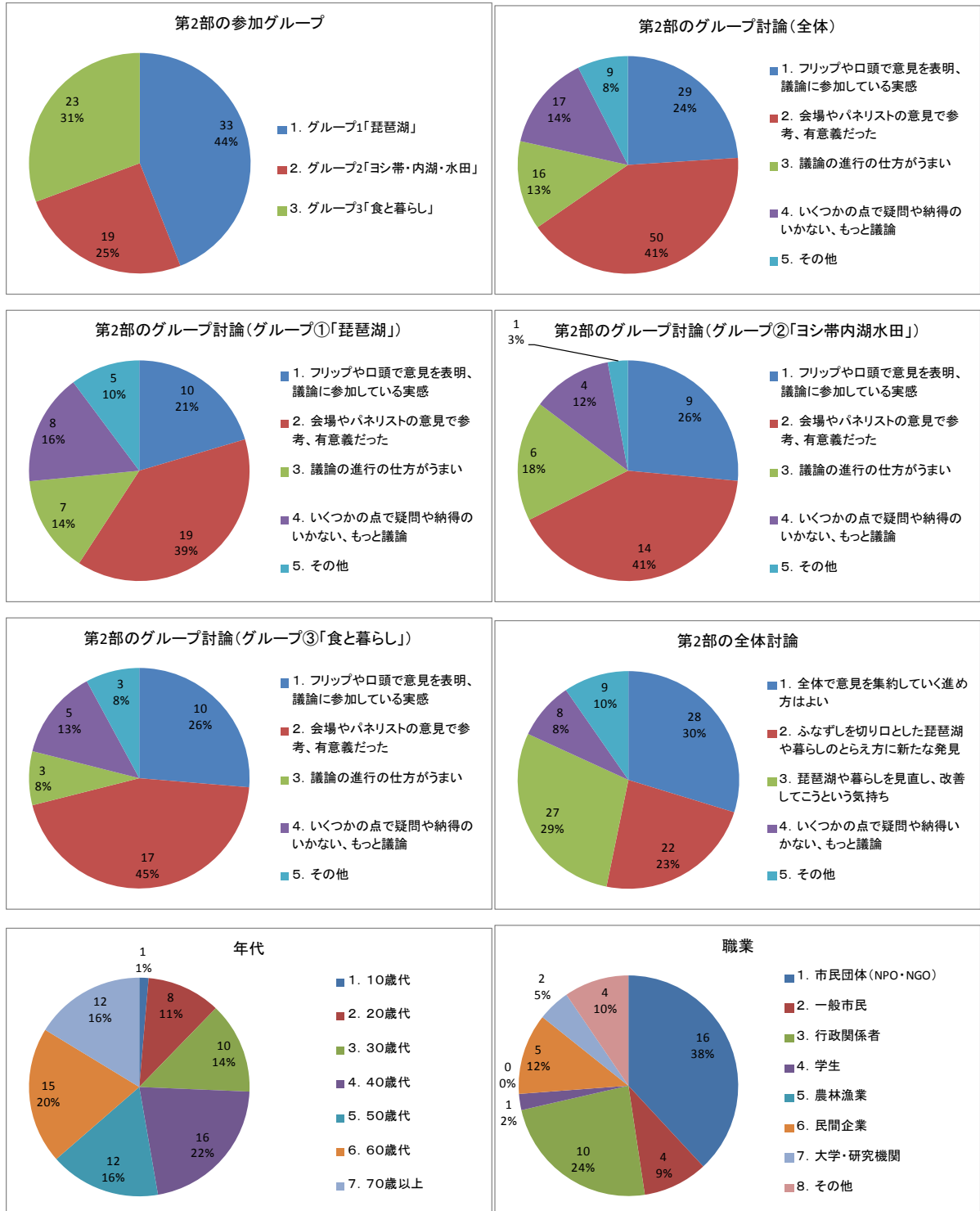
①琵琶湖への関心を高める仕組みや場づくり	②ふなずしのストーリーを聞きながら食べる機会	③生き物に配慮した川づくり	④ヨシ帯内湖水田の物理的な繋がりの復元	⑤ヨシ帯内湖水田の面積の復元	⑥人々がつながり、取組みに参加する仕組みづくり	⑦自ら作る・オリジナルふなずし	⑧食育へ導入	⑨モデル地区づくり＋見学	⑩ふなずしを県外にPR
37	12	14	28	14	26	17	4	19	6

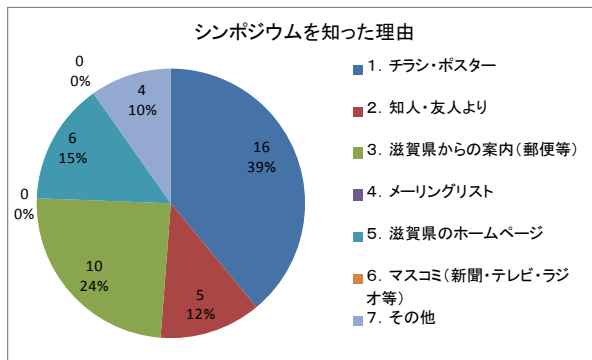
- 1 位 琵琶湖へ関心を持つ仕組みや場づくり
- 2 位 ヨシ帯・内湖・水田の物理的なつながりの復元
- 3 位 人びとがつながり、取組に参加する仕組みづくり
- 4 位 （ニゴロブナの生態が見える）モデル地区づくり＋見学
- 5 位 自らつくるオリジナルふなずし



### 3. 配付アンケートの結果

#### (1) グラフ





## (2) 自由記述(抜粋)

### A. フォーラムの成果

- ・琵琶湖の大切さ、重要度等々参加者皆が共有できたのでは
- ・あらためて「ふなずし」を食べてみたいと思いました。びわ湖における課題を勉強できて大変、参考になりました。
- ・びわ湖をふなずしというキーワードから市民参加の意見を県へ上げていくとりくみは素晴らしいと思った。
- ・琵琶湖への多くの生活に結びついた直の思いと多く聞くことやその現状について、詳しく知ることができてよかった。
- ・「川下」の住民として環境～暮らしまで考えることができた。
- ・楽しくゆっくり考える時間をいただいた。フリップに書くことを通じて、受動的でなく参画型となった。

### B. 第1部との関連

- ・1部の山崎さんと知事の話がすごくよかったので、2部をもっとうまくつなげられればよかったと思った。

### C. グループ討論の進め方

- ・もう少し時間があればよかったです。
- ・グループ毎のテーマ、進行プログラム等は、参加募集の段階あるいは開催前に公開しておいた方が、各人が整理した意見を発することができ、またファシリテーターも進行とまとめがしやすくなると思う。
- ・具体的な提案に結びつけるには、ステップとして無理があった。
- ・ジャンル別に意見を集めないと、琵琶湖全体のテーマに対して拡散し、「当然」の範囲を超える意見に至らない。
- ・設問は2点とも最初に伝えておいたほうがよかったのでは、、、。

### D. 全体討論の進め方

- ・提言をまとめる際、文言をもう少し工夫を
- ・全体で意見を広げていくことは良いがまとめていくことを考えると時間が足りない。

- ・ {話題のふり方の脈絡づけ、話題集約→投票のスムーズさ}がもう少しうまくされていればなおよかった。
- ・ 琵琶湖守りたいという気持ちはみなさん共通しているので、特に議論を集約していかななくてもよいのかなと思いました。議論の中で感じたことがなんとなく共有できれば、明日の行動につながるようなと思います。
- ・ 第1部と第2部、3部との関連性をもたせた議論になっていればもっとよかった。第2部、時間的制約の中で参加者の意見を十分聞くためにはパネリスト形式は不要だったのではないかな。  
※話題提供、グループ討論、全体討論のことと思われる（事務局注）
- ・ せっかく一般の方々の意見でトップ5を選んだのに、どうしてまとめる過程で抽象的な言葉（行政のつくった計画のような）になってしまったのが残念。
- ・ 提案されたものは、時間の関係上理念的なものにとどまった為、「ではどうすればそれが実現できるか」といった具体的な話し合いができるとより面白かった。

#### E. フォーラムの結果の活用

- ・ このフォーラムの結果がどう県政に反映されるのか？総論賛成、各論反対の中で、県庁内そのものの意識統一が必要。部局による意識のずれをどう埋めるかが課題と思う。
- ・ 決まったTOP5の行く末がよくわからなかった。決めた内容はどこでどのよに反映されるのか。

#### F. その他提案等

- ・ 最終投票を後日、インターネット投票にしたらどうでしょうか
- ・ 大変良いフォーラムだったが魚ばかりが琵琶湖にいる訳ではなく、（中略）生物多様性にも目を向けて話しも今後は課題として上げられ共に話し合う機会がもたれます事を望みます。
- ・ 何故、市町が円卓会議に含まれていないのか疑問であり、不審を感じています。前々から言っていたが動き始めてから市町と連携をとるのは非常に困難。マザーレイク21計画はもちろん円卓会議についても担当者会議を持つべき（まずは連絡会議で十分）（時期が遅ければ遅れる程連携は困難になる）。正直、今の体制を外から眺めていると「びわ湖の管理は県だから市町は関係しなくていい」と思われてもしかたがないのでは？そうした壁を越えて関係者が集まり、びわ湖を守ろうというのが円卓会議の趣旨だと思うのですが、、、？
- ・ 本日の情報を多くの人々に知ってもらう為、又、伝える為にDVDやネット等で自由に観・聴し、興味を持った人々が続々と参加出来るような仕組みを作られれば、いかがでしょうか？
- ・ マザーレイクフォーラムの今後の展開をどうしていくのか、いかれるかが気になります。問題のつながりを知り、森・川・湖それぞれの場の取り組みで、つながりをどう表現し連携して取り組むかを話し合いたかった。
- ・ 2部の”円卓会議”という言い方が固いと感じました。市民の方々がもっと参加していただくには、もっと気軽に参加できるようなネーミングの方がよいと思います。
- ・ これから円卓会議をどのように進めていくかという話もあってほしかった



### (3) 参考:「描いてみよう！2020年の暮らしと琵琶湖」配布アンケートの結果

